

C-44 凹曲線に対する折込み成形の適応性について
戸板女短大 ○香取智恵子 河野千賀子

目的 第21回総会において、曲線部の折込みについて特に凸形成形に対する実験について報告したが、その関連として今回は、凹曲線に対する布地のなじみについて実験を試みた。布端折込み部分の成形については、布地の性質や折込み量、切込み数などをその場で適応させて成形するが、特に凹形曲線の折込みに対する研究例は他にみないので、新たに実験・検討を行った。

方法 凹曲線を表わす方法として $\frac{1}{4}$ 円を用い、折込み量を0.5cm～2.5cmの5段階に分けて裁断した。この折込み量(縫代)に $\frac{1}{4}$ 円の 0° より 50mm の位置と、 45° を中心として 50mm の位置に一定の切込みを入れ、他は2cm～2.5cmおきに切込んでおく。次にこの縫代を折込んでアイロンセットしておき、先きの2つの 50mm 間の弧の深さを測定した。

他に関連すると思われる基礎物理量も測定した。

結果 凹曲線への折返し成形は、折返し量(縫代)の少ない程よく凹曲線になじむのは当然であるが、 10mm ～ 15mm の縫代の場合、布地によつて成形の難易度(なじみ易い布地となじみ難い布地)に差があらわれる。 50mm 間隔の切込みに対し、充分曲線適応する布地と、不適応のため、更に切込み間隔をつめる必要のある布地に2分される。この性質の差は、布地の基礎的な物理特性に関係している。